

復興支援フォーラムニュース No. 59

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)
=====

<第56回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

さる1月23日、第56回ふくしま復興支援フォーラムが42名の参加で開催されました。井上能行氏（東京新聞編集委員<福島駐在>）から、「東京新聞はなぜ脱原発か」について報告があり、熱心な質疑応答が繰り返されました。以下は、会場で提出されたご意見等です。参考にしてください。

~~~~~

★ この間の東京新聞の紙面づくりには敬意を表します。支局の開設も有り難いと思いますが、やはり非常事態だからこそなのだろうと感じます。井上さんは、いつまで支局が必要と考えられているのか、福島がどのような状況になったときに役割が終わると考えられているのか、うかがってみたいと思いました。（H.S）

★ 原発は安全ですか、技術的に安全ならばなぜ東京湾に作らないのでしょうか。医療者が福島を離れるのはなぜか。風評によるものでしょうか（M.T）

★ 脱原発の発信がいかに難しいのか？情報の二面性をどう理解してもらうかが大切な気がします。報道は、様々な立場があつていいと思うのだが、それが全てとってしまうことが問題なのかもしれません。読者が、様々な情報の中で、どう真実を見つけることができるのかなのだろうと思います。表面の現象の中に抱えている日本の本質的な矛盾を見つけることができるようになるといいなと思います。大変興味深く考えさせられました。できれば、教育に関する話題もだしていいかもしれないなと思います。福島県の場合は、「原発」に関わらせない「放射能教育」という傾向が強いように思うので、この点をもう少し追及してもらえるといいかなと思ったりもしています。（N.S）

★ 3年が経過しようとしている今、双葉郡の各町村長さんの皆さんから、訴えたいこと、怒っていることなどをうかがうことができないでしょうか。（Y.T）

★ 新聞社の考えで、新聞記事の掲載の違いに、大変興味を持たせて、今後購読することができる。最近、ネットで新聞記事を早朝見てから、新聞を改めて読んでいる私は、もっと新聞を楽しく読んでみたい。東京新聞は、毎日ネットで読ませていただいているが、今後も楽しく読ませていただきたい。今後とも、原発事故を風化させないためにも、東京・中日新聞で、福島を報道して欲しい。（Y.W）

★ 原発事故後、他紙（地元紙を含む）が報道してくれない「福島」をとりあげてくれたのが東京新聞でした。自分の住む場所から離れた場所の新聞社が、ある意味「事実」を伝えてくれるということは正直意外でした。この事でずい分救われた思いがあります。また、新聞購読についてですが、やはりネットより、「紙面を直に読む」ことで得られる情報量には「格段」に近い位の差があると思います。時間はかかりますが、実になる量は違うような気がします。復興の話で「何とかならないか」という話が出るのですが、そこに

加害者である東電の責任に言及されている事があまりないように思います。とても異和感を感じます。(井上さんへ) 井上さんの御意見、捉え方は、事故以降、放射線の影響を気にしながらとどまる者からすると、かなりギャップがあると思いました。食品に関しても、「食べても大丈夫」とはいい難く、それを作る方々の被曝についてが、表に出てこない事は問題だと思います。「風評被害」では無く「実害」であり、「変わらない風景があるじゃないか」という人もいますが、根本的な問題を見落とさないで下さい。(S.T)

★ もっと切り込んだ話が聴けると期待して来たのですが、少し残念でした。事前に「こういう話を聴きたい」という要望をヒアリングしていただけると有意義な時間になると思います。(K.T)

★ 「読者にこびる」ではなく「読者に寄り添う」姿勢は素晴らしいと思います。「金曜日デモの報道」は続けてください。技術論ではなく倫理でという気持ちは良く理解できますが、ジャーナリズムが技術論を放棄してしまうと、原発推進の圧倒的宣伝に誰が立ち向かうのでしょうか？現在、原発情報(データ)は、ジャーナリズムを通してしか開示されていません。データを引き出す役割からも、いわゆる技術論を避けないで欲しい。「反骨精神のあるジャーナリストの話を久々にきくことができうれしく思いました。」(S.I)

★ 東京新聞の記事に関心もっていたので、支局開設の経緯など、興味深く聞きました。(Y.N)

★ 福島と首都圏・中京圏との差を埋めていくことに、今後とも力を尽くして行ってください。(Y.I)

★ 新聞の読み方を、作る側から解説していただき、ありがとうございました。沖縄と福島の共通しているのは、現場・地域の問題・現実が、中央の政策・方向に反映されないというこのように思います。苦勞されている状況とつらぬいている事がよく理解でき、今のマスコミ状況から、是非、今後もご活躍を期待しております。

★ 新聞が親しまれて、読まれていくためには、何が重要か、判りやすく現感覚に裏打ちされた語りかけ、非常に参考になりました。(S.K)

★ 東京新聞を福島で買いたいと思いました。こう書きますと笑い話のようですが、余りにもマスコミ人の福島・原発事故に対する意識の低さがへきえきするばかりだからです。調査報道が少なすぎます。「東京新聞を世界一の新聞にする会」の発展を祈りたいぐらいです。(T.I)

★ 全国紙と地方紙を読んでいます。年明けから、特に全国紙には、原発事故の記事は無く(少なく)なっています。やはり、書き続けて(伝え続けて)下さい。皆さんに、福島のことを忘れないでいただきたい。(E.C)

★ 『東京新聞』について、詳細なご紹介ありがとうございます。(M.K)

★ いろいろな意味で“風化”は、法則的に進行すると思います。それは一方で生きるためのものであり、他方で、生きづらくさせるものでもあります。両者にとっての共同のたたかいは、事故被災の構図を原型として確立することと思っています。メディアは、まだそこに気づいていないようです。(O.S)

★ 新聞や記者を育てるのは、読者であることがわかりました。(Y.S)

★ 県外の方が、当地に駐在され、第三者の目線で、本県の実情を記事化され、首都圏の読者に提供されていること、これからも継続されますことを期待いたします。(K.F)

平成26年2月6日

## 福島県における畜産の現状と課題 (畜産研究所の視点から)

福島県農業総合センター畜産研究所  
志賀 茂

### 1 畜産とは

一般には、牛、豚、鶏、山羊、羊、みつばちを飼って、肉、牛乳、卵などを生産する。

### 2 事故直後の福島県畜産研究所の対応概況

### 3 原発事故による福島県畜産の影響

- (1) 福島県の家畜飼養状況
- (2) 福島県内の家畜生産の状況
- (3) 飼料作物等の生産状況
- (4) 福島県産原乳の出荷制限解除状況について
- (5) 計画的避難区域等からの家畜の移動等について
- (6) 牛肉の出荷・検査方針の概要（福島県）
- (7) 肉牛の出荷制限とその対応状況（福島県）

### 4 畜産物の放射線モニタリング実施状況

平成25年10月までに2万点あまりを実施、自粛解除になって以降、原乳、肉類、鶏卵に基準値を超える食品はない。牧草類ではほ場毎に検査をして、25年度で0.7%が検出された。

### 5 平成23年度放射線関連成果

## 6 平成24年度放射線関連成果

### 7 牧草に関する試験について

- (1) 牧草地における放射性セシウムの垂直分布
- (2) より安全な牧草生産のための草地更新方法

### 8 乳牛に関する試験について

- (1) 生乳への放射性セシウムの移行抑制技術  
吸着効果のある資材の検討、14種類の資材
- (2) 生乳への放射性セシウムの移行抑制効果  
実際に給与する場合の効果的な量、その効果

### 9 肉牛に関する試験について

- (1) 給与飼料中の放射性セシウムの筋肉、血液、尿への移行
- (2) 給与飼料と尿中の放射性セシウムの動き
- (3) 清浄飼料に切り替えた場合の尿中の放射性セシウムの動き

## 10 結びに